

会 議 要 旨

会議の名称	第4回川越市子どもサポート本部会議
開催日時	令和6年2月22日（木）午後6時00分～7時30分
開催場所	東庁舎2階教育委員会室
議長氏名	遠藤克弥（東京国際大学）（進行：大牟田副課長）
出席者	村上重仁（小学校長会）、吉田基（中学校長会）、築嶋秀幸（PTA連合会）、松本紀美子（子ども会育成団体連絡協議会）、佐藤保雄（自治会連合会）、遠藤克弥（東京国際大学）、山下正雄（青少年を育てる市民会議）、谷川輝之（中央地区サポート委員会）、奈良明英（中央南地区サポート委員会）、山下由利子（芳野地区サポート委員会）、小川浄（古谷地区サポート委員会）、田中幸二（南古谷地区サポート委員会）、戸守宏明（福原地区サポート委員会）、山田幸次（大東地区サポート委員会）、小峰肇（霞ヶ関地区サポート委員会）、美代川幸雄（名細地区サポート委員会）、中島利一（山田地区サポート委員会） 計17名
欠席者	鈴木誠（中央北地区サポート委員会）、斉藤修（高階地区サポート委員会）、金子晃（霞ヶ関北地区サポート委員会）、井川一行（川鶴地区サポート委員会）、中里良明（中央公民館長）、富田稔（中央図書館長）、岡田賢治（博物館長） 計7名
事務局職員	武藤地域教育支援課長、大牟田副課長、金田指導主事、横尾主査、小池主任、小野寺主事、吉田社会教育指導員
傍聴者	なし
会議次第	1 開会 2 あいさつ 3 報告・確認事項 （1）令和5年度「川越子どもサポート発表会」について（資料1） （2）令和5年度子どもサポートコンクール「小江戸見つけ隊」について（資料2） 4 協議事項 （1）令和6年度子どもサポートコンクール「小江戸見つけ隊」実施要項について（資料3） （2）来年度の事業について ・令和6年度子どもサポート本部会議年間予定（案）（資料4） （3）来年度に向けて各地区情報交換 ・各地区現状・課題

	5 諸連絡 (1) 令和6年度 第1回川越市子どもサポート本部会議の開催について (5月中旬を予定。正式に決まり次第連絡) (2) 令和6年度の本部委員について (資料5・6) (3) その他 6 閉会
配付資料	資料1 令和5年度 川越子どもサポート発表会 (報告) 資料2 子どもサポートコンクール「小江戸見つけ隊」全作品展示会 (報告) 資料3 令和6年度 子どもサポートコンクール「小江戸見つけ隊」 実施要項 (案) 資料4 令和6年度子どもサポート本部会議年間予定 (案) 資料5 子どもサポート本部委員推薦書 資料6 子どもサポート本部委員承諾書

会 議 録

1 開会 2 あいさつ 3 報告・確認事項 (1) 令和5年度「川越子どもサポート発表会」について (資料1) (2) 令和5年度子どもサポートコンクール「小江戸見つけ隊」について (資料2) ⇒(1)(2) 合わせて事務局より報告した。作品展について、「出品数が学校によって差があったこと」「参観者数が若干減少したこと」「作品を入れるピーポートがだいぶ古くなっていること」等について、出席者から意見があった。 出品数については校長会でできるだけ広報すること、ピーポートについては予算の範囲内で購入を検討することを確認した。 4 協議事項 (1) 令和6年度子どもサポートコンクール「小江戸見つけ隊」実施要項について (資料3) ⇒資料に基づいて事務局より説明した。今までの案との変更点として、作品募集の締め切りを早めたことについても確認した。 (2) 来年度の事業について ・ 令和6年度子どもサポート本部会議年間予定 (案) (資料4)
--

⇒資料に基づいて、全員が集まる本部会議を年3回、「小江戸見つけ隊」のために部会ごとの本部会議を年1回、それ以外に来年度も専門部会を年3～5回開催することを確認した。

(3) 来年度に向けて各地区情報交換

・各地区現状・課題

⇒中央：参加者が第一小に偏りがち。対策を検討中。

⇒中央南：登録ボランティアの協力が難しかった。協力してくれた保護者に登録してもらった。全保護者に協力依頼を発信してリスタートしていきたい。

⇒芳野：委員が減少。PTAのみになってきた。委員募集の文書を保護者に配布した。

⇒古谷：古谷小のふるさと体験学習で安全見守りを行った。

⇒南古谷：活動はすべて体験活動。学校応援の依頼があれば検討していく。委員を増やすため、大学生への呼びかけを考えている。地区会議や民生委員とサポート委員会との横の連携を進めたい。

⇒福原：地区会議と協力して、また中学生ボランティアの協力で子どもまつりを開催。サポート委員はPTAが中心。地区会議とこれからも協力していきたい。

⇒大東：子どもフェスティバルと夏冬の寺子屋を実施。学校応援について3点報告。プール掃除の依頼について、今年は何とか協力したがいかななものか。落ち着かない学級のサポートの依頼についてはお断りした。不登校児童への対応のサポートについてはお断りしようと思う。

⇒霞ヶ関：サポート委員会への出席が減ってきた。委員の高齢化。

⇒名細：サポート委員会への協力者、認知度が足りない。サポートだよりを魅力ある内容にしていく。箱根駅伝の青山学院大学のアンカーからの子どもたちへの言葉を入れたい。

⇒山田：来年度も今までどおり活動したい（藍染め、ホタル、まが玉）。

⇒地区会議：中央地区サポート委員会にもかかわっている。自分の地区が中央と中央北に分かれてしまう。

⇒自治会：地区会議の活動が少なくなってきた。

⇒PTA：保護者の考え方が変わってきた。市P連にサポート委員会のことを伝えたい。

⇒小学校長：サポート委員会の学校応援はありがたい。学校にはたくさんの作品募集の依頼が来るので、学校によって見つけ隊の出品数に差が出てしまう。校長会にも働きかけたい。

⇒中学校長：中学生は、学習塾、部活等いろいろ忙しい。すり合わせをしていきたい。

⇒市子連：市子連に所属している校区が減少していく。

⇒本部長：教育的な活動はすぐに結果が出ない。発表会が達成感を得られる機会だった。他地区との交流をもっと進めるとよいのではないか。お互いの活動を見るとよい。地区ごとに柱になる活動を設定して続けていくとよい。専門部会にぜひ参加してほしい。我々はボランティアとして高い志がある。

5 諸連絡

(1) 令和6年度 第1回川越市子どもサポート本部会議の開催について

(5月中旬を予定。正式に決まり次第連絡)

⇒月曜日または金曜日を予定している。

(2) 令和6年度の本部委員について

(資料5・6)

⇒変更があれば、推薦書と承諾書を提出する。資料にある用紙をそのまま使用する。

事務局に連絡すれば新たに用紙またはそのデータを送る。今後は委員のメールアドレスも登録していく。

(3) その他

⇒特になし

⇒課長より謝辞

6 閉会